

Q 神経ブロックは体に悪くないの？

A 神経ブロックは痛みの原因となっている部位や痛みを伝える神経に直接薬剤を投与するので少量の薬剤ですみます。従って、薬剤の全身への影響は非常に少ないので、高齢者や合併症のある方、必要があれば妊娠中の方にも安全に行えます。もちろん、よく理解してくれるなら子供さんにも行えます。使用する薬剤は安全性の高い局所麻酔薬なので、使用する量、回数であれば繰り返し使用しても問題ありません。時に炎症や痛みが強い場合などでステロイド剤を使用しますが、患者さんの合併症の有無を考慮し必要最小限で使用しますので、飲み薬のような全身への副作用はほんの僅かです。

Q ブロックは痛くないの？

A 筋肉注射をする時より細い針を使用しますが、刺すときは一瞬チクッとします。少し太い針(それでも採血のときに使う針程度)を使用するときは、前もって皮膚への麻酔をします。

Q 治療後、車の運転はできるの？

A ブロック後、2時間は車などの運転は控えてください。ブロックの種類によっては使用する局所麻酔薬により一時的に手や足の筋力が低下することがあります。

ブロック治療には車を運転してこないようにしてください。



Q ブロックの治療後、入浴できるの？

A 使用するブロック針は非常に細いものを使用しています。ですので、刺入部が感染する確率は非常に低いです。当院ではその日でも「入浴してもいいですよ」と言っています。

Q ブロック以外、薬の処方もあるの？

A 治療の中心は神経ブロックで原則的に週に1~3回程度のブロック治療を行います。併用として内服薬、シップの使用、炎症を抑える効果の強い近赤外線治療、リハビリテーションも重要な治療の一環となります。

対象となる症状は…

痛みだけではありません！

整形外科領域の疾患

- 頸肩腕の痛み
(頸椎間板ヘルニア、五十肩、変形性頸椎症、肩こりなど)
- 腰下肢痛
(ぎっくり腰、椎間板ヘルニア、変形性腰椎症、腰部脊柱管狭窄症、変形性膝関節症 など)
- 胸背部痛、頭痛

皮膚科領域の疾患

带状疱疹、带状疱疹後神経痛、バージャー病、レイノー病、皮膚潰瘍、花粉症、アトピー性皮膚炎

耳鼻科領域の疾患

顔面神経麻痺、突発性難聴

眼科領域の疾患

中心動脈静脈閉塞症、緑内障による視野狭窄の改善

その他の痛みを伴う疾患

- 三叉神経痛、外傷後の痛み (GRPS:複合性局所疼痛症候群)
- 脳出血・脳梗塞後の痛み (視床痛)
- ガンによる痛み (ガン性疼痛)
- 血管障害による痛み
- 閉塞性動脈硬化症、血栓性静脈炎
- その他の疾患

眼瞼・顔面痙攣、自律神経失調症

主な神経ブロック

硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、交感神経ブロック、三叉神経ブロック、顔面神経ブロック、後頭神経ブロック、頸神経ブロック、肩甲上神経ブロック、肋間神経ブロック、坐骨神経ブロック、椎間関節ブロック、神経根ブロック、仙骨ブロック、トリガーポイント注射など

痛みというものは、感じ方が様々で、本人しらがわからない測りし得ないものです。専門医とその問診など十分に行い適切な治療を一緒にしていきましょう。院長をはじめスタッフ一同が痛みのない快適な生活へのお手伝いをいたします。

※上記以外の症状の方も医師にご相談ください。